

慶應義塾大学大学院法務研究科（法科大学院）
2022 年度入学試験 法学未修者コース 小論文試験 出題趣旨

【小論文】

本問は、耳塚佳代「『フェイクニュース』時代におけるメディアリテラシー教育のあり方」
社会情報学第8巻3号（2020年）に拠った。

問題文は、オンラインの偽情報・誤情報による世論操作が加速するなかで、個人が主体的
に情報を評価し、事実に基づく情報とそうでないものを区別する能力を身につける必要
が高まっていることを指摘し、そのためにどのようなメディアリテラシー教育がなされる
べきかを海外の例を紹介しながら論じている。

【問1】では、この文章のキーワードの一つである「フェイクニュース」という用語につ
いて、著者の指摘する問題点を正確に読み取り、文字数の範囲で適切に整理・要約でき
ているかが問われている。「フェイクニュース」という用語が様々な有害情報を区別
せず一括りにしていること、一部の政治家によって都合の悪い情報を否定する手段
として利用されていること、それゆえ、人々の情報全般に対する不信を増大させて
いることを明確かつ論理的に述べることを求められる。

【問2】では、問題文全体の論旨を踏まえて、日本におけるメディアリテラシー教育の
あり方について自らの考えを述べることを求められている。問題文を適切に理解して
いることはもちろんであるが、その内容を繰り返すだけでなく、時事問題や自分の
経験、または文中で紹介された海外の事例等を参考に、自分なりの問題意識や提案
等について述べているかが問われる。ここでは、文章の読解力に加え、問題意識の
鋭さ・深さ、着眼点の良さ、論旨の説得力などが評価される。

なお、【問1】・【問2】とも、答案全体から文章の構成力と表現力、語彙の豊か
さ、洞察力、見解の独自性などを総合的に評価する。なお、字数が足りない場合
やオーバーした場合は減点となる。